

令和7年度 日本植物病理学会関西部会プログラム

日程 令和7年9月18日（木），19日（金）

会場 京都大学吉田キャンパス 北部構内 農学部総合館
〒606-8502 京都府京都市左京区北白川追分町
(<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja>)

受付 農学部総合館 W100講義室前

事務局 農学部総合館 中会議室

第1日（9月18日）

11:30～	受付開始	農学部総合館 W100講義室前	
13:00～14:00	総会	W100講義室	
	シンポジウム	W100講義室	
	部会長 小林 括平		
	テーマ:「抵抗性と感受性のはざま」・・・ウイルス病研究者から見た植物病害		
14:30～17:30	一般講演		
第1会場 W214 101～115 病原体の性状，感染生理，病原性・抵抗性，防除薬剤・薬剤耐性，生物防除・防除法 (菌類病，植物保護)	第2会場 W314 201～215 感染生理，病原性・抵抗性 (細菌・ファイトプラズマ病，植物保護)	第3会場 W422 301～315 感染生理，病原性・抵抗性 (菌類病，ウイルス・ウイロイド病，植物保護)	
18:00～20:00	情報交換会（北部生協）		

第2日（9月19日）

9:30～11:06	一般講演	
第1会場 W214 116～123 病原性・抵抗性，防除薬剤・薬剤耐性，その他 (菌類病，植物保護)	第2会場 W314 216～222 検出・診断，感染生理，防除薬剤・薬剤耐性，生物防除・防除法 (菌類病，細菌・ファイトプラズマ病，植物保護)	

お願い

<部会参加者の皆様へ>

- ・ 受付場所：農学部総合館 W100講義室前です。
- ・ 事前申し込み済みの方：講演要旨集，名札/領収書，および，名札ケースをお渡しします。名札と領収書の払い込み金額をご確認ください。別途領収書の必要な方は申し出てください。
- ・ 当日申込みの方：参加費（一般6,000 円，学生3,000 円），講演要旨集代（2,000 円），情報交換会費（一般5,000 円，学生3,000 円）を必要に応じてお支払いいただき，領収書，講演要旨集，名札ケースを受け取ってください。
- ・ 会場での注意事項：

会場内では名札を常時身につけてください。名札ケースは関西部会で再利用しておりますので，部会終了時に各会場の出入り口および1階受付に設置予定の回収箱にご返却ください。

携帯電話など音が出る電子機器は，講演会場内では電源をお切りいただくかマナーモードに設定願います。キャンパス内は原則禁煙ですが，喫煙スペースもございます。詳細は部会スタッフにお尋ねください。

- ・ 其他のご案内：

休憩室として，W302講義室，W402講義室をご利用ください。

昼食等には，総合館南側「北部生協」の食堂（1&2F）や売店（2F），近隣の飲食店等をご利用ください。構内には，自動販売機も多数設置されております。

不明な点や要望などがありましたら，部会スタッフに遠慮なくお申し出ください。

<発表者の皆様へ>

- ・ 発表10分（予鈴8分），討論2分の計12分の時間厳守で進行をお願い致します。
- ・ 発表用ファイルは，事前にWindows版「PowerPoint 2021」で正常に表示されることを必ずご確認ください。発表用ファイルは，スライドサイズは標準の4:3で正常に表示されることを確認のうえ持参してください。
- ・ スライド作成に際しては，特殊なフォントや機種依存文字は使わないでください。また，後部座席からでも判読できるように，小さい文字や細かい図表の使用は避けてください。
- ・ 受付時に，発表スライドのファイル名は「発表番号-発表者氏名.pptx」（例，101-京大太郎.pptx）としてください。発表番号は半角文字，括弧「」は不要です。
- ・ 発表スライドのファイルは，必ずウイルスチェックをお済ませの上，USBメモリに保存して持参し，**1日目の発表者は9月18日(木)の10時30分から13時の間に，2日目の発表者は9月18日(木)の16時までにPC受付に提出をお願いします。**また，提出時にご自身で必ず動作確認をお願いします。USBメモリはその場で返却しますが，念のため発表終了まではご自身でお持ちください。
- ・ 各発表のPowerPoint スライドショーの開始・終了は会場係が行いますが，発表中のスライド送り等は，PCのキーボードまたは会場備え付けレーザーポインターの操作により発表者ご自身で行っていただきます。なお，サイズが重いファイルはパソコン動作に不具合をきたすことがありますので，なるべく軽いファイルをご準備ください。
- ・ 講演要旨の訂正が2カ所以上の場合は，朱書きで訂正した要旨のプリントアウトを座長に提出して校閲を受けるとともに，最終的な訂正原稿のファイルを10月3日（金）までに，メールに添付して本年度の関西部会開催地事務局のアドレス（mine.akira.8c@kyoto-u.ac.jp）宛まで送付し，必ず受領連絡をお受けください。

<座長の皆様へ>

- ・ 部会前に講演要旨を読み，必要があれば事前のメールや部会当日の発表者との直接打合せ等で，要旨の訂正をお願いしてください。
- ・ 発表者から要旨の訂正依頼があった場合は，座長用の講演要旨集に赤字で直接記入するか，該当ページに訂正原稿を挟み込んでください。講演要旨の訂正箇所が多い場合は，訂正要旨のプリントアウトを校閲し，発表者に対して訂正原稿のファイルを10月3日(金)までに本年度の関西部会開催地事務局のアドレス(mine.akira.8c@kyoto-u.ac.jp)宛に送付するようご指示ください。
- ・ 発表10分（予鈴8分），討論2分の計12分の時間厳守で進行をお願い致します。

◆ JR京都駅から市バス利用（所要時間：約30～35分）

【206系統】A3乗り場から「三十三間堂・清水寺・祇園・北大路バスターミナル」行き → 「百万遍」下車 → 徒歩約10分

JR奈良線に乗り換え東福寺まで約2分 → 京阪本線に乗り換え出町柳まで約15分 → 出町柳駅から徒歩で約15分

※大学内の駐車場はご利用いただけませんので、お車でお越しの方は周辺の有料駐車場をご利用ください。

The map shows the North Campus (北部構内) of Kyoto University. Key locations marked include:

- 農学部総合館 (Faculty of Agriculture Building):** Located near the intersection of Mikage St. and Imadegawa St.
- 北部生協 (情報交換会会場) (North Student Union / Information Exchange Hall):** Located near the intersection of Mikage St. and Imadegawa St.
- バス停 京大農学部前 (Bus Stop: Kyoto University Faculty of Agriculture):** Located near the intersection of Mikage St. and Imadegawa St.

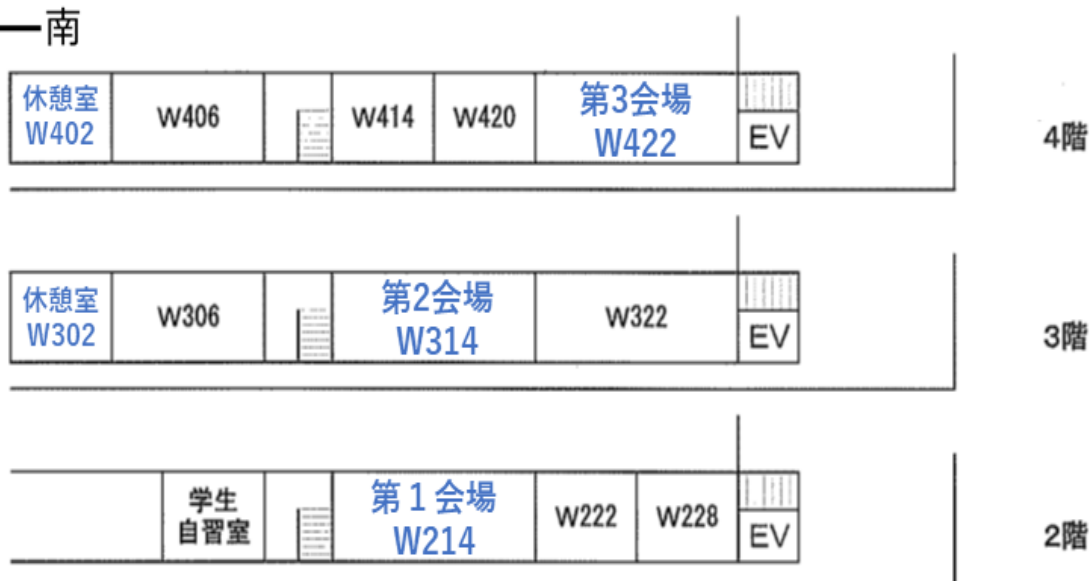
Other landmarks and streets shown include:

- Streets:** 御蔭通 Mikage St., 今出川通 Imadegawa St., 田中樋ノ口町 Tanaka Hinokuchicho, 北白川小倉町 Kitashirakawa Oguracho.
- Buildings:** 25, 23, 21, 22, 27, 14, 13, 12, 11, 10, 9, 5, 4, 3, 2, 1, 6, 26, 20, 19, 18, 8.
- Facilities:** 共同利用研究者宿泊所 北白川学舎 (Guesthouse for joint use researchers, Kitashirakawa Gakusha (YTTP and RIMS)), 食堂 Cafeteria, 生協店舗 Cooperative Store, バス停 Bus stop, 自動体外式除振動器 (AED) Automated External Defibrillator.
- Directions:** 北門 (North Gate), 南門 (South Gate), 百万遍 Hyakumanben, 本部構内 Main Campus, 銀閣寺 Ginkakuji.

- ・ 総会 W100
- ・ 第1会場 W214
- ・ 第2会場 W314
- ・ 第3会場 W422
- ・ 受付 W118
- ・ PC受付 W102

- ・ 休憩室 W302, W402
- ・ 事務局 中会議室
(役員会 中会議室)

【情報交換会 北部生協
(総合館南側)】



「抵抗性と感受性のはざまで」・・・ウイルス病研究者から見た植物病害

令和7年度 日本植物病理学会関西部会長
小林 括平（愛媛大学大学院農学研究科）

植物病害抵抗性品種の利用は、重要な病害防除の手段の一つであることに異論はないであろう。多様な品種・系統や近縁種からの探索によって、様々な作物において抵抗性遺伝子が同定され、抵抗性品種の開発に利用されてきた。しかし、病原微生物の多くにおいて抵抗性を打破する系統が出現し、甚大な被害をもたらす場合も少なくない。筆者は縁あって、ピーマンのトバモウイルス抵抗性遺伝子の単離同定に関与した。ピーマンの抵抗性品種において多様な抵抗性打破ウイルス系統が発見され、抵抗性遺伝子の同定とそのウイルス認識機構の解明が急務とされていた。その研究が佳境を迎えつつあった頃、現場病理の専門家と別のウイルスの発生調査に赴いた車中で、「（ピーマンの）抵抗性品種で打破株が出ると、えそが出て被害が大きくなるので、腕の良い農家には抵抗性品種を使わない人もいる」ということを伺った。ピーマンのトバモウイルス感染症、特にトウガラシ微斑ウイルス感染では、「微斑」というウイルス名からも分かるように、病徴はさほど激甚なものではなく、生育条件を整えれば、十分な収穫を得ることができるとのことであった。

その後、大学に転じた筆者は、上述の現場病理専門家の言葉が頭から離れず、感受性病徴を軽減する方法を模索するようになった。細菌や糸状菌などの植物病原微生物が感染した場合、栄養を収奪するために植物の組織を破壊するものも多い。それに対して偏性細胞寄生性のウイルスは、積極的に宿主細胞を死に至らしめることはない。そのころ、すでにウイルス感染による全身壊死が、抵抗反応と共通した植物の応答によって引き起こされることが報告されていた。また、キュウリモザイクウイルス（CMV）では、サテライトRNAに対するRNAサイレンシングがクロロフィル合成系遺伝子の発現を抑制し、葉の黄化を誘導するなど、抗ウイルス防御であるRNAサイレンシングが病徴発現を主導する例が示された。さらにCMVにおいて外被タンパク質の特定座位のアミノ酸を置換することによって、抵抗反応様の壊死斑から、重篤な退緑、さらには軽微な葉脈周辺の退緑に至る多様な反応を引き起こすことが報告された。これらのことから筆者は、植物ウイルス病の感受性病徴は、多様な防御応答の暴走・失敗・遅延によって生じると考えるようになった。実際、上述のクロロフィル合成系遺伝子を、ウイルス感染を介さずに発現抑制した植物においても、主にサリチル酸を介する植物免疫関連遺伝子の発現が活性化され、散発的な細胞死が観察された。また、サリチル酸経路の部分的な抑制によって、同様なモデル系における退緑が軽減されることも示された。遺伝子発現変動の面からは、細菌感染症においても抵抗性と感受性の応答に大きな質的な差異はなく、命運を分けるのは応答の鋭敏さだと考えられるようである。

このように抵抗性と感受性の境界は、抵抗性遺伝子の有無などの生物系統間の質的な違いによって大枠は規定されているものの、多様な環境要因に影響されつつ変動するものである。重要病害という言葉がもたらす、その病害がもたらす経済的影響が大きい場合に用いられることから、抵抗性と感受性の線引きは、一定の発病程度を受け入れるかどうかという我々ヒトの都合で行われていると考えて良いであろう。病原体を抑え込むことをめざすのではなく、経済面において許容可能な範囲でより持続性の高い病害防除を設計するために、多少は病原体にも好きにさせるというスタンスも重要かもしれない。侵略者に対して妥協なく抗戦しつづけることが、必ずしも国家の安定や国民の幸福につながるわけではないように、という例えは的外れかもしれないが・・・

9月18日	第1会場	第2会場	第3会場
14:30	座長 浅野俊介 101-104 101 大阪府におけるナスうどんこ病のSDHI剤感受性とアジュバンド加用による防除効果の向上 ○田中貴幸 (大阪環農水研)	座長 都筑正行 201-205 201 ジャスモン酸誘導性転写因子であるOsHLH168のイネ白葉枯病抵抗性における役割 ○秋山結香 ¹ ・鍛冶良磨 ¹ ・前川晃輝 ¹ ・鈴木豪 ² ・五味剣二 ^{1,2} (香川大農・ ² 愛媛連大農)	座長 三瀬和之 301-303 301 Functional analysis of <i>NtSARD1</i> and <i>NtCBP60g</i> in basal and R-gene-mediated tobamovirus resistance in <i>Nicotiana tabacum</i> ○Houssam Eddine Said Benesedira・Takashi Yaeno・Hidetaka Kaya・Kappei Kobayashi (UGAS, Ehime Univ.)
	14:42 102 静電気技術と顕微鏡技術を併用したメロンうどんこ病菌に対する農薬感受性評価法の検討 ○佐藤唯都 ¹ ・安藤壮真 ¹ ・山本洸也 ¹ ・野々村照雄 ^{1,2} (近畿大農・ ² 近畿大アグリ技術革新研)	202 <i>Osiaa13</i> 変異体に蓄積している防御関連揮発性物質の同定 ○村上愛奈 ¹ ・鈴木豪 ² ・藤井ゆみ ¹ ・福田麻夏 ¹ ・宇治雄也 ¹ ・尾野畑智則 ¹ ・五味剣二 ^{1,2} (香川大農・ ² 愛媛連大農)	302 RCNMV感染時のAGO2 mRNA発現誘導におけるmiR403を介した転写後発現調節の影響 ○手塚響 ¹ ・大橋卓 ¹ ・田原緑 ² ・齊藤大幹 ¹ ・元村一基 ² ・竹田篤史 ¹ (立命館大院生命・立命館大総研)
	14:54 103 赤色光または青色光で照射されたメロンうどんこ病菌の分生子柄における形態および細胞学的特徴の相違 ○安藤壮真 ¹ ・山本洸也 ¹ ・佐藤唯都 ¹ ・鈴木智子 ² ・野々村照雄 ^{1,3} (近畿大農・ ² 日本女子大理・ ³ 近畿大アグリ技術革新研)	203 OsZIP01はリグニン合成を制御することによってジャスモン酸誘導性イネ白葉枯病抵抗性に寄与する ○森安裕太郎・福田麻夏・秋山結香・尾野畑智則・五味剣二 (香川大農)	303 トマト退緑ウイルス滋養株のゲノム配列決定と感染性cDNAクローンの構築 ○長底正悟 ¹ ・岡部弘大 ¹ ・福田萌々子 ¹ ・田原緑 ² ・齊藤大幹 ¹ ・元村一基 ² ・竹田篤史 ¹ (立命館大院生命・立命館大総研)
15:06	104 デジタル顕微鏡を用いたイチゴうどんこ病菌におけるアンペロマイセス属菌の寄生行動解析 ○伊吹祐真 ¹ ・相阪郁乃 ¹ ・藤田心優 ¹ ・佐藤唯都 ¹ ・野々村照雄 ^{1,2} (近畿大農・ ² 近畿大アグリ技術革新研)	204 イネNB-LRR型受容体Xa1複合体による細胞死誘導機構 ○西川慧 ¹ ・吉久采花 ¹ ・吉村智美 ¹ ・清水元樹 ¹ ・豊田正嗣 ¹ ・山口公志 ¹ ・川崎努 ¹ (近畿大院農・ ² 岩手生工研・ ³ 埼玉大理工)	座長 竹田篤史 304-306 304 イネのNLR免疫受容体RBM1によるbrome mosaic virus (BMV)因子の認識機構の解析 ○西村優里奈・嶋本果穂・大竹竜馬・高原菜月・Singkaravanit-Ogawa Suthitar・峯彰・高野義孝・三瀬和之 (京大院農)

9月18日	第1会場	第2会場	第3会場
9月18日	座長 津島綾子 105-108 15:18 105 RNA-seqによるイチゴうどんこ病に対するポーベリア・バシアーナ乳剤（ボタニガードES）の作用機作の検討 ○浅野峻介 ¹ ・平山喜彦 ² ・窪田昌春 ³ （ ¹ 奈良農研セ・ ² 龍谷大農・ ³ 農研機構植防研）	205 白葉枯病菌エフェクターXopPによるイネユビキチンリガーゼPUB44の機能阻害メカニズムの解明 ○藪内大空・井澤夏人・吉村智美・山口公志・川崎努（近畿大院農）	305 クライソウイルスHvV145S 5'-UTRに存在するリボザイム及びIRESの性状解析 ○丹羽健成 ¹ ・山内健太郎 ¹ ・上田茜 ¹ ・佐藤育男 ¹ ・竹本大吾 ¹ ・鈴木信弘 ² ・千葉壮太郎 ¹ （ ¹ 名大院生農、 ² 岡山大植物研）
	15:30 106 Molecular characterization of Dic3 in <i>Bipolaris maydis</i> and its role in resistance to dicarboximide and phenylpyrrole fungicides and osmotic stress Yuko Saigo ¹ ・Minori Shimomura ¹ ・○Diana Cecilia Ruiz-Nava ² ・Kenya Tsuji ¹ ・Akira Yoshimi ^{1,2} ・Moriyuki Kawauchi ¹ ・Yoichi Honda ¹ ・Chihiro Tanaka ^{1,2} （ ¹ Grad. Sch. Agri., Kyoto Univ., ² GSGES, Kyoto Univ.）	座長 安田盛貴 206-210 206 白葉枯病菌エフェクターXopZによる核内標的因子を介したOsRBOHHの転写抑制機構の解析 ○杉山ありさ ¹ ・豊田宗一朗 ² ・山田朋輝 ² ・西村太樹 ² ・川崎努 ^{1,2} ・山口公志 ^{1,2} （ ¹ 近畿大農・ ² 近畿大院農）	306 接ぎ木株から検出された温州萎縮ウイルスの外被タンパク質遺伝子の配列比較 ○高橋千恵 ¹ ・江崎亮太 ² ・橋本将典 ² ・平田久笑 ² （ ¹ 静岡大創造院・ ² 静岡大院農）
	15:42 107 トウモロコシごま葉枯病菌における接着因子の解析 ○辻健也 ¹ ・佐波雅史 ¹ ・吉見啓 ^{1,2} ・河内護之 ¹ ・本田与一 ¹ ・田中千尋 ^{1,2} （ ¹ 京大院農・ ² 京大地球環境学堂）	207 青枯病菌OE1-1株において、新奇転写制御因子AoiRは、クオラムセンシングに依存した病原力関連遺伝子の発現誘導に関わる ○池内葵・館田宇宙・植山竜弥・藤坂渚加・木場章範・大西浩平・曳地康史・都筑正行（高知大農林海洋）	座長 川上拓 307-311 307 島根県におけるブドウ晩腐病菌の種構成と薬剤感受性 ○永島進（島根農技セ）
	15:54 108 ピーマンうどんこ病抵抗性育種母本の探索 ○岡田知之・岡田遼太郎・細美祐子・山崎睦子（高知農技セ）	208 青枯病菌OE1-1株におけるフェリシデロフォア受容体の新奇機能 ○藤坂渚加・館田宇宙・植山竜弥・池内葵・木場章範・大西浩平・曳地康史・都筑正行（高知大農林海洋）	308 ブドウ根頭がんしゅ病とトマトかいよう病に対して発病抑制効果を示す非病原性 <i>Allorhizobium vitis</i> の新菌株について ○川口章（農研機構西農研）

9月18日	第1会場	第2会場	第3会場
9月18日	座長 佐々木一紀 109-112 16:06 109 灰色かび病菌<i>Botrytis cinerea</i>のBcTADHはイチゴや他のバラ科植物のファイトアレキシンであるトルメント酸および類似構造を持つトリテルペノイドの解毒代謝に関与する ○川島みなみ・芦田晃・佐藤育男・千葉壮太郎・小鹿一・竹本大吾（名大院生農）	209 タバコ野火病菌8018におけるゲノム構造と病原性の解析 ○開悠翔¹・黒江香那²・松井英讓^{1,2}・清水元樹³・坂田七海^{1,2}・能年義輝^{1,2}・豊田和弘^{1,2}・一瀬勇規^{1,2}（¹岡山大農・²岡山大院環境生命・³岩手生工研）	309 トマト褐色輪紋病発生予測モデルの有効性の検証 ○竹原有志・清水佐知子・松浦昌平（広島総研農技セ）
	16:18 110 多犯性植物病原菌<i>Botrytis cinerea</i>におけるファイトアレキシン耐性化関連遺伝子のヒストンH3のK9トリメチル化による制御 ○嶋悠希・芦田晃・川島みなみ・佐藤育男・千葉壮太郎・小鹿一・一柳健司・竹本大吾（名大院生農）	210 タバコ野火病菌はType III effector三重欠損株で<i>Nicotiana tabacum</i> cv. Xanthiに対する病原力が低下する ○黒江香那・樫原沙知・西村隆史・坂田七海・能年義輝・豊田和弘・一瀬勇規・松井英讓（岡山大院環境生命）	310 モモ縮葉病における既存薬剤を用いた効果的な防除時期及び展着剤加用効果 ○川上敦子・桐野菜美子（岡山農研）
	16:30 111 付着器形成の切り替えに関与する新規分泌タンパク質の同定と機能解析 ○胡浩偉・千葉壮太郎・竹本大吾・佐藤育男（名大院生農）	座長 松井英讓 211-215 211 高温高湿条件下のシロイヌナズナにおける<i>Pseudomonas syringae</i>を中心とする葉内細菌叢の実験進化 ○藤縄勇雅・Singkaravanit-Ogawa Suthitar・三瀬和之・高野義孝・峯彰（京大院農）	311 施設トマトでのプロヒドロジャスモン液剤散布によるトマト褐色輪紋病の抑制効果 ○松浦昌平（広島総研農技セ）
	16:42 112 葉緑体局在ROSセンサー候補タンパク質はRBOHを介したROSバーストを制御する ○牛凱麗¹・小川尊也¹・小山菜々子¹・日野雄太¹・吉岡美樹¹・鈴木孝征²・杉浦大輔¹・吉岡博文¹（¹名大院生農・²中部大）	212 シロイヌナズナのAHL9転写因子はサリチル酸応答を促進する ○奥村隆真・篠田快望・Singkaravanit-Ogawa Suthitar・三瀬和之・高野義孝・峯彰（京大院農）	座長 平山喜彦 312-315 312 圃場で採取した1つの病斑中に存在するブドウべと病菌は主に遺伝的に単一の系統からなる ○木田千紗子・青木考・津島綾子（大阪公大院農）

9月18日	第1会場	第2会場	第3会場
16:54	座長 足助聡一郎 113-115 113 ベンサミアナのジャガイモ疫病菌抵抗性に必須な <i>NbSAR8.2m</i> の病原菌感染時の発現パターンの解析 ○長屋舞夢 ¹ ・今野沙弥香 ¹ ・柴田裕介 ¹ ・大石陽子 ² ・大石俊輔 ¹ ・田中愛子 ¹ ・佐藤育男 ¹ ・千葉壮太郎 ¹ ・松林嘉克 ³ ・竹本大吾 ¹ （名大院生農・ ² 名大ITbM・ ³ 名大院理）	213 病原細菌エフェクターの認識によって誘導されるシロイヌナズナの水浸漬抵抗性の解析 ○安田盛貴 ¹ ・Rajendram Arullthevan ¹ ・Sk Rahul ² ・篠澤章久 ³ ・西條雄介 ¹ （ ¹ 奈良先端大バイオ・ ² 東京農大ゲノム解析セ・ ³ 東京農大バイオ）	313 <i>Pythium dissotocum</i> によるコリアンダー根腐病（新称） ○尾山郁未・東條元昭（大阪公大院農）
	17:06 114 祖先型テルペン合成酵素の還元によるナス科植物ファイトアレキシン生産の進化的起源の解明 ○Maurizio Camagna ¹ ・Julia Yurkiv ² ・Zander Ketwit ² ・佐藤育男 ¹ ・千葉壮太郎 ¹ ・小鹿一 ¹ ・竹本大吾 ¹ （ ¹ 名大院生農・ ² North Carolina State Univ.）	214 リン欠乏環境におけるシロイヌナズナのリン枯渇応答転写制御因子PHR1/PHL1を介した炭疽病菌の感染制御 ○石原大雅・安田盛貴・西條雄介（奈良先端大バイオ）	314 根の褐変を伴う萎れ症状が見られたカボチャ台木の水耕キュウリの根から分離された <i>Pythium clade B2a</i> のカボチャとキュウリに対する病原性 ○五十嵐美優・東條元昭（大阪公大院農）
	17:18 115 ファイトアレキシン耐性機構を基盤としたSordariomycetes綱植物病原菌の宿主範囲拡大の可能性について ○芦田晃・小鹿一・佐藤育男・千葉壮太郎・竹本大吾（名大院生農）	215 アブラナ科野菜根こぶ病菌の転写因子型エフェクター <i>PbZFE1</i> 形質転換シロイヌナズナの遺伝子発現解析 ○安藤杉尋・手塚菜花（県立広島大生物資源）	315 汽水域に分布するツユカビ目6種の比較ゲノム ○陳桐瑀 ¹ ・大坪佳代子 ² ・景山幸二 ³ ・日恵野綾香 ² （ ¹ 岐大院自然科学・ ² 岐大CENSS・ ³ ホクレン農総研）

9月19日	第1会場	第2会場
9月19日	座長 斎藤大幹 116-119 9:30 116 キャベツから分離された病原性および非病原性<i>Fusarium oxysporum</i>菌株間の染色体の水平移動 ○鮎川侑¹・戒能未咲²・八丈野孝¹ (愛媛大院農・²愛媛大農)	座長 坂田七海 216-218 216 三重県の青ネギ産地で発生する細菌性病害の特定と各種殺菌剤による防除効果 ○川上拓¹・村田つばさ¹・佐々木彩乃²・西颯太²・佐波雅史³・井上康宏³ (¹三重農研・²伊勢志摩普及セ・³農研機構植防研)
	9:42 117 フッ素含有化合物群の病害防除資材としての活性評価 ○島田佳苗¹・渡邊恵¹・青津理恵²・清野淳弥²・高橋雄介²・坂田七海¹・松井英謙¹・豊田和弘¹・一瀬勇規¹・小金敬介²・能年義輝¹ (¹岡山大院環境生命・²ユニマテック (株))	217 過炭酸ナトリウムとEDTAを用いたキウイフルーツ花粉除菌技術の開発 ○須崎浩一¹・生咲巖² (¹農研機構植防研・²香川農試府中果樹研)
	9:54 118 細胞膜透過ペプチドを用いた植物病原糸状菌<i>Rhizoctonia solani</i>の形質転換の検討 ○橋野賢生¹・田村知広²・渡邊恵¹・坂田七海¹・松井英謙¹・豊田和弘¹・一瀬勇規¹・大槻高史²・能年義輝¹ (¹岡山大院環境生命・²岡山大院ヘルスシステム)	218 過炭酸ナトリウムを用いた除菌によってキウイフルーツかいよう病汚染花粉が無害化されていることの確認 ○生咲巖¹・須崎浩一²・青野光男³ (¹香川農試府中果樹研・²農研機構植防研・³愛媛農林水産研果樹研)
10月6日	119 Crop protection activity of lecithin against leaf symptoms caused by <i>Rhizoctonia solani</i> ○Tran Xuan Cuong¹・Daiki Homma¹・Moeko Soeda¹・Megumi Watanabe¹・Hidenori Matsui¹・Kazuhiro Toyoda¹・Yuki Ichinose¹・Kentarō Ikeda²・Yoshiteru Noutoshi¹ (¹Grad Sch of Env, Life, Nat Sci & Tech, Okayama Univ., ²Facul of Biosci and Appl Chem, Hosei Univ.)	座長 辻元人 219-222 219 サクラてんぐ巢病罹病個体の芽における花成経路遺伝子の解析 ○前田桃花・原口果子・佐々木一紀 (山口大農)

9月19日	第1会場	第2会場
	座長 鮎川侑 120-123	
10:18	120 Exploring the resistance mechanism in <i>Brachypodium distachyon</i> accessions to soil and leaf inoculation of <i>Rhizoctonia solani</i> AG-4 ○Rozi Fernanda¹・Niranjan Mahadevan¹・Nanami Sakata¹・Hidenori Matsui¹・Kazuhiro Toyoda¹・Yuki Ichinose¹・Yusuke Kouzai²・Keiichi Mochida^{3,4,5}・Yoshiteru Noutoshi¹ (¹ Grad Sch of Env, Life, Nat Sci & Tech, Okayama Univ., ² NARO., ³ Yokohama City Univ., ⁴ Nagasaki Univ., ⁵ RIKEN CSRS)	220 低濃度エタノールによるトマトの病害抵抗性誘導 ○岩村明優果¹・Nguyen Thi Xuan Thuy^{1,2}・山田守¹・佐々木一紀¹ (¹ 山口大農・² Fac of Sci, Kasetsart Univ.)
10:30	121 N-ヒドロキシピペコリン酸を基質にする5個のシロイヌナズナ配糖化酵素 ○包継源¹・内山大河¹・楠和輝¹・篠原優佳¹・谷川友里佳²・渡邊恵¹・坂田七海^{1,2}・松井英謙^{1,2}・豊田和弘^{1,2}・一瀬勇規^{1,2}・石濱伸明³・白須賢³・能年義輝^{1,2} (¹ 岡山大院環境生命・² 岡山大農・³ 理研 CSRS)	221 植物萎凋毒素フザリン酸の解毒代謝酵素の探索 ○松尾百華・寺元茜・田川克滉・西川俊夫・小鹿一・千葉壮太郎・竹本大吾・佐藤育男 (名大院生農)
10:42	122 真菌細胞壁由来の2種類の新規 MAMPsの特定と植物応答の解析 ○谷内桂子¹・Sreynich Pring¹・加藤大明^{2,3}・佐藤育男¹・千葉壮太郎¹・中川優¹・竹本大吾¹ (名大院生農、² 京大院農・JSTさきがけ)	222 トウモロコシごま葉枯病菌 <i>Bipolaris maydis</i>における新たなボリオキシン耐性遺伝子の同定と機能解析 玉木裕¹・辻健也¹・吉見啓^{1,2}・田中千尋^{1,2} (¹ 京大院農・² 京大院地球環境学)
10:54	123 シロイヌナズナ <i>nsll</i> 変異体で生じる PAMP 誘導型細胞死への光呼吸の関与 ○鷲森茜¹・小村浩加¹・Singkaravanit-Ogawa Suthitar¹・西内巧²・三瀬和之¹・峯彰¹・高野義孝¹ (¹ 京大院農・² 金沢大研究基盤)	